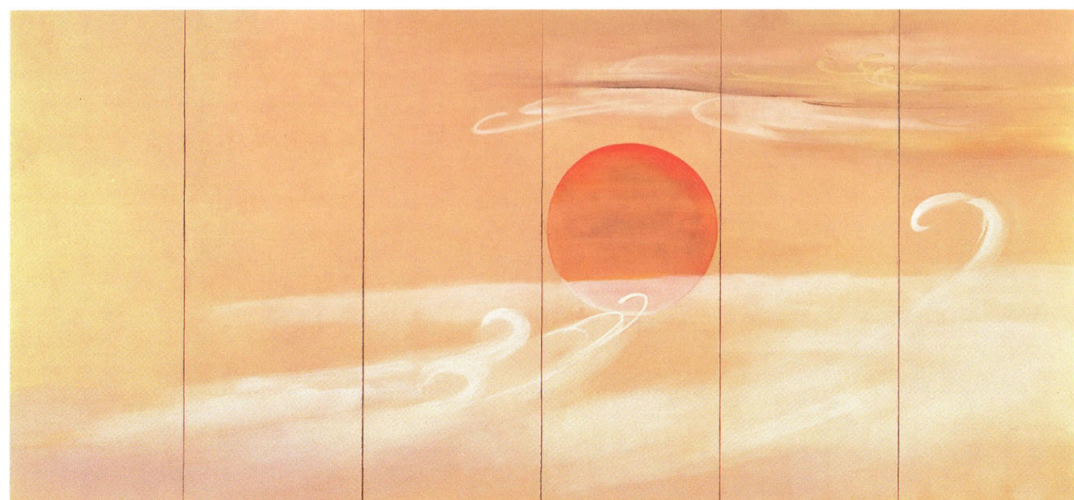


時代状況の要請に応じて昭和前期に中国や朝鮮を訪れた画家たちは、そこで異郷の風景を新たに「発見」し、それまでに日本国内では描かれることの少なかったモチーフに取り組むことで、視覚の拡大をはかっていった。橋本関雪もそのひとりであり、この作品では、茫漠とした蒙古の砂漠にたたずむ母子のラクダの姿が、実地でそのさまを見聞した画家ならではの現実感をもって描写されている。



〔参考〕右隻

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に¹出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

どうぶつ美術園―描かれ、刻まれた動物たち

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 30

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十五年三月二十九日発行

© 2003, Museum of the Imperial Collections